

## 令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果についての資料 (久米中学校の現状と今後の取組について)

令和 8 年 4 月 23 日（木）に行われた「令和 8 年度全国学力・学習状況調査」の結果分析、ならびに今後の久米中学校としての具体的な改善策についてお知らせします。

### 1 調査の目的について

#### ■ 全国の調査（文部科学省）：

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証・改善する。
- ・学校における教育指導の充実や、児童生徒の主体的な学習状況の改善等に役立てる。

### 2 令和 8 年度 全国学力調査結果（中学 3 年生）

今年度、本校の 3 年生が受験した全国学力・学習状況調査の平均正答率および無解答率は以下の通りです。

| 教科 | 本校 平均正答率 | 全国 平均正答率 | 本校 無解答率 | 全国 無解答率 |
|----|----------|----------|---------|---------|
| 国語 | 59.7%    | 63.9%    | 7.0%    | 4.9%    |
| 数学 | 54.7%    | 57.0%    | 12.8%   | 10.4%   |
| 英語 | 455      | 499      | 4.7%    | 3.4%    |

※英語は、IRT 集計で平均正答率が示されているため、平均 IRT スコアを掲載しています。IRT スコアとは、生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのか区別して分析し、学力スコアを推定する統計理論によるスコアです。

#### 【学力データ分析結果の受け止め】

本年度は、国語、数学、英語の全 3 実施教科において全国の平均正答率を下回るという、結果となりました。一方で、国語においては「言葉の特徴や使い方に関する事項」（知識・技能分野）で全国平均に近づき無解答率も低水準を維持していることや、数学においては全国との差が昨年度から 1.3 ポイント縮小し、基礎知識の定着が見られるなど、取組の成果も確実に芽生えています。

#### （1）国語科の分析

■ **成果：**「言葉の特徴や使い方に関する事項」（知識・技能分野）において全国平均に近づき、無解答率も低水準を維持しています。漢字や文法などの基礎的知識の復習指導が功を奏していると考えられます。

■ **課題：**「情報の扱い方に関する事項」の設問で全国平均を 5.4 ポイント下回りました。また「読むこと」「書くこと」の領域でも全国比 4.7～4.9 ポイントの開きがあります。「文章の内容を正確に解釈し、根拠を明確にして自分の考えを書く」記述問題における指導の強化が必要です。

## （２）数学科の分析

■ **成果**：全国との差は縮小傾向（昨年度差より 1.3 ポイント縮小）にあり、特に「数と式」および「関数」の領域では全国との開きが小さく、一部の設問で全国を上回る結果も見られました。計算処理等の基礎的な知識・技能は定着してきています。

■ **課題**：「図形」領域における課題が極めて大きく、考察対象となる辺・角の関係把握や、三角形の合同などを根拠にした証明の記述が弱い傾向にあります。日常生活の数学的事象から問題を見だし、自らの言葉で筋道を立てて説明するプロセスの強化が必要です。

## （３）英語科の分析

■ **成果**：日常的な話題において必要な情報を聞き取る「聞くこと」の領域については、全国・県平均との差が比較的小さく、小学校からのリスニング指導の習慣化が活きています。

■ **課題**：「書くこと」の領域で全国平均との差が非常に大きいです。自分の体験や考えを理由とともにまとまりのある英語で書き表す記述問題が弱点です。また、生徒質問紙によると「英語が得意・好き」と答えた割合が低く（それぞれ否定的回答が 61.6%、47.8%）、心理的距離が大きいことが、学力層の最上位（IRT バンド 5）の割合を低くしている一因と考えられます。

## 3 令和 8 年度 生徒質問紙調査（学習・生活習慣等）

生徒の学習や生活習慣、自己肯定感、学校に対する意識を示す「児童生徒質問紙調査（中 3 抜粋）」の主要結果は以下の通りです。

| 質問項目（肯定回答：当てはまる/どちらかといえば含む） | 本校    | 岡山県平均 | 全国平均  |
|-----------------------------|-------|-------|-------|
| Q42: 学級の友達との話し合いで自分の考えが深まった | 91.3% | 87.4% | 87.0% |
| Q8：自分には良いところがあると思う          | 84.8% | 86.4% | 84.0% |
| Q10: 将来の夢や目標を持っている          | 65.3% | 67.9% | 67.6% |
| Q23: 普段（月～金）家庭学習時間 1 時間以上   | 58.7% | 53.3% | 61.6% |
| Q23: 普段（月～金）家庭学習を全くしない      | 8.7%  | 8.6%  | 6.9%  |

### 【質問紙結果の大きな成果と課題】

昨年度に課題とされていた『学級の友達との間で話し合う活動による考えの深化（Q42）』において、本年度は **91.3%** と、全国・県平均を大幅に上回る極めて高い成果を上げました。授業内での「学び合い」の定着が見られます。

一方で、家庭学習時間 1 時間以上の割合は県平均を上回ったものの、家庭学習を全くしない生徒の割合は依然として全国平均より高く、スマートフォンやゲームの利用時間が 1 時間以上の割合が約 9 割（91.3%）にのぼるなど、生活リズムと学習習慣の定着に課題を残しています。

## 4 学力向上のための今後の主な取組（重点施策）

久米中学校では、今回の調査結果を踏まえ、特に以下の5点を重点的な取組として推進し、生徒の学びと自己肯定感を学校全体で支えていきます。

### ■ ① 自己決定型の「学びのサイクル」の確立と振り返りの重視

毎時間ごとに目指したい姿を生徒と共有して自己決定を促し、授業後には自分の学びの姿を記述・振り返る時間を設定。ICTを活用した振り返りシートにより「さらに疑問に感じたこと」「考えが変化したこと」に着目させます。

### ■ ② 「思考力・判断力・表現力」の育成を図る授業改善

算数・数学を核として、授業の中で生徒自身が自分の考えを持ち、結果に至る「解決の過程・結果の根拠」を対話的に説明・発信するアウトプット活動（よむ YOMU ワークシートや表現ツールの積極的活用）を充実させます。

### ■ ③ 小中連携（中学校ブロック）による系統的学力育成

小学校と中学校の接続を意識し、系統的な調査型演習プリントの実施や、共通の指導ルールの確立により、小学校段階からの思考力記述の基礎力を段階的に引き上げます。

### ■ ④ 朝の10分間「モジュール学習」による基礎の反復定着

全校で朝学習の時間を活用し、10分間の基礎ドリル（国語：漢字・要約、数学：計算、英語：単語）を継続的に実施。単元テスト後の再チャレンジテスト（即時補習）を定着させ、つまづきを翌日までに解消します。

### ■ ⑤ 家庭・地域との連携による学習習慣とスマホ利用ルールの確立

家庭学習の単元計画を生徒に提示し、見通しを持たせた予習・復習、持ち帰り端末を活用したAI教材（ナビマ）の宿題化を進めます。また、PTAや学校運営協議会と連携し、スマホ利用ルールや家庭学習時間の見直し、啓発活動を組織的に展開します。